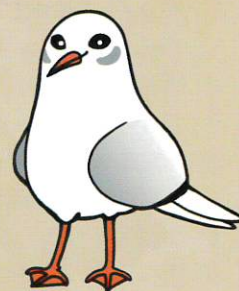


東部地区文化財担当者会 40 周年記念リレー展示
春日部市郷土資料館 第 70 回企画展示

都鳥が見た古代

埼玉県東部地区の奈良時代・平安時代



都鳥のみーた

東部地区文化財担当者会・春日部市郷土資料館

あいさつ

な お と みやこどり おも
名にし負はば いざこと問はむ都鳥 わが思ふ人はありやなしやと

この歌は、平安時代に書かれた伊勢物語で、関東への旅の途中に在原業平が、隅田川を渡る船でよんだ歌といわれています。業平が船に乗っていると、川面に見慣れない鳥が見えたので、船頭に尋ねたところ、都鳥とこたえたのを聞き、都に残した恋人を思い、詠んだ歌です。

埼玉県東部地区には、奈良時代の律令制度により、武蔵国埼玉郡と下総国葛飾郡がおかれました。武蔵国と下総国の国境となったのが、現在の渡良瀬川～大落古利根川～古隅田川～元荒川～中川を流れる利根川本流で、業平の都鳥の歌の舞台となった川でした。

今回の展示では、埼玉県東部地区の奈良時代・平安時代の考古資料を紹介します。さまざまな考古資料を通じて、都鳥が見たであろう奈良時代・平安時代の人々の生活を想像していただければ幸いです。

埼玉県東部地区 15 市町の文化財担当者で組織される東部地区文化財担当者会は、昭和 59 年の発足より 40 年を迎えます。今回の展示は、東部地区文化財担当者会で平成 26 年度より開始した「埼玉県東部地区の奈良時代・平安時代」の研究成果に基づくものです。

最後に、本展示を開催するにあたり、調査・出品について、ご指導、ご協力を賜りました皆様、関係機関に深く感謝いたします。

令和 6 年 7 月 20 日

東部地区文化財担当者会・春日部市郷土資料館

目次

- 1 埼玉県東部地区の地形と奈良時代・平安時代の郡・遺跡… 1
- 2 奈良時代・平安時代の竪穴建物…………… 2
- 3 奈良時代・平安時代の役所と掘立柱建物…………… 3
- 4 奈良時代・平安時代の土器…………… 4
- 5 奈良時代・平安時代の須恵器…………… 5
- 6 奈良時代・平安時代の土師器焼成坑…………… 6
- 7 奈良時代・平安時代の鉄生産…………… 7
- 8 奈良時代・平安時代の織物生産と紡錘車…………… 8
- 9 奈良時代・平安時代のいのり…………… 9
- 10 伊勢物語と都鳥



凡例

- 1 本図録は、東部地区文化財担当者会 40 周年記念リレー展示、春日部市郷土資料館夏季企画展示（第 70 回）「都鳥が見た古代一埼玉県東部地区の奈良時代・平安時代」の図録です。東部地区文化財担当者会は、春日部市、越谷市、久喜市、八潮市、三郷市、蓮田市、幸手市、吉川市、白岡市、宮代町、杉戸町、松伏町、行田市、加須市、羽生市から構成されます。
- 2 本展示は、春日部市郷土資料館で令和 6 年 7 月 20 日（土）～9 月 1 日（日）に開催するものです。なお、東部地区内 15 市町で令和 8 年 3 月までリレー展示を開催します。
- 3 本図録の構成は展示構成と必ずしも同一ではなく、掲載資料の中には展示していないものもあります。
- 4 本図録掲載の写真は、関係各所からご提供いただいたほか、断りのないものは東部地区文化財担当者会構成市町で所蔵、撮影したものです。
- 5 本図録の内容は『埼玉県東部地区の奈良時代・平安時代』（東部地区文化財担当者会 2024）に基づきます。
- 6 遺物写真の大きさは任意です。

協力者（五十音順・敬称略） 石倉慶子 奥野麦生 押田 豊 田口志織 水口由紀子 山口 潤

春日部八幡神社 埼玉県立さきたま史跡の博物館 埼玉県立歴史と民俗の博物館

表紙写真 八木崎遺跡出土刻書紡錘車（埼玉県教育委員会提供）「奉念随口道足」と刻まれる

1 埼玉県東部地区の地形と奈良時代・平安時代の郡・遺跡



埼玉県東部地区は、北部に妻沼低地、加須低地、中央部東側に下総台地、西側に大宮台地、これら台地の間に中川低地が広がります。かつて、低地には利根川、荒川、渡良瀬川などが流れ、自然堤防が発達しています。

奈良時代・平安時代の遺跡は、台地上だけではなく、自然堤防上でも発見されています。

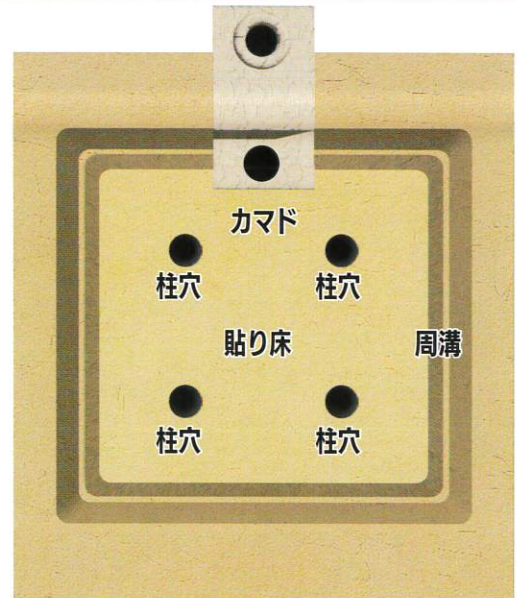
奈良時代に制定された律令制度により、^{りつりょう}東部地区には武蔵国^{むさしのくに}埼玉郡^{さきたまぐん}、^{しもうさのくに}下総国^{かづしかぐん}葛飾郡が設置されました。

東部地区の地形と古代の遺跡・郡(国土地理院治水地形分類図(更新版)を一部改変)

2 奈良時代・平安時代の竪穴建物

たてあな^{たてあな}てもの
竪穴建物は、奈良時代・平安時代にかぎらず、縄文時代、弥生時代、古墳時代を通して人々の生活を支えていました。地面を0.5～1.5m掘り下げ床を作り、柱を立てて屋根をのせます。奈良時代・平安時代の竪穴建物には、カマドが設置されます。発掘調査では、地面を掘り下げた部分と柱穴や周溝と呼ばれる壁下の溝、カマドなどが確認されます。奈良時代・平安時代の竪穴建物は、一辺が2.5m～6mの四角形が一般的です。埼玉県東部地区では、平安時代の後半にかけて床面積が小さくなります。

竪穴建物にカマドが備えつけられるようになり、高火力^{はちじょう}を得られるようになりました。八條遺跡^{はちじょう}（八潮市）では、移動式のカマド（置きカマド）が出土しています。



竪穴建物模式図



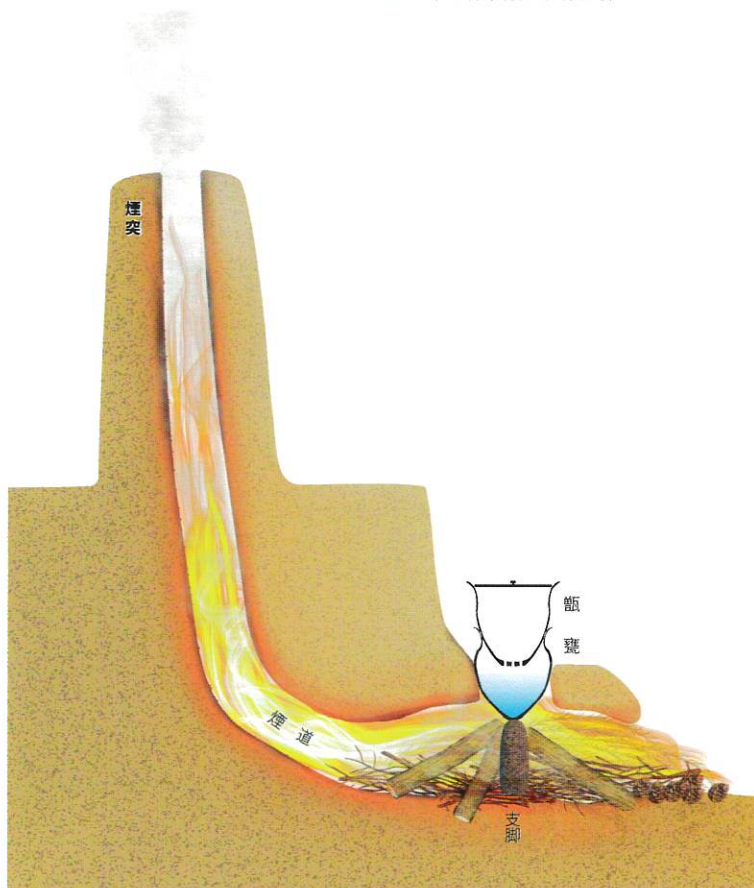
八條遺跡（八潮市） 移動式カマド
（八潮市指定文化財）



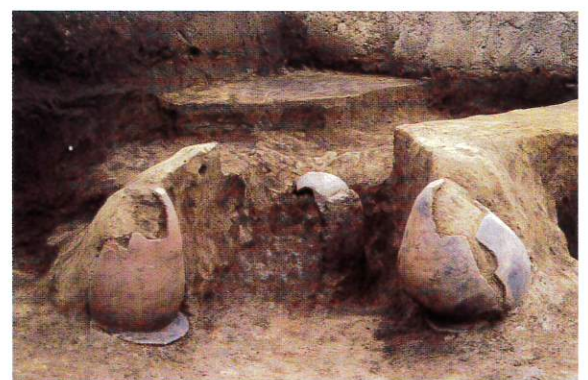
貝の内遺跡（春日部市） 竪穴建物



飯積遺跡（加須市） カマド
（埼玉県教育委員会提供）



カマド断面模式図



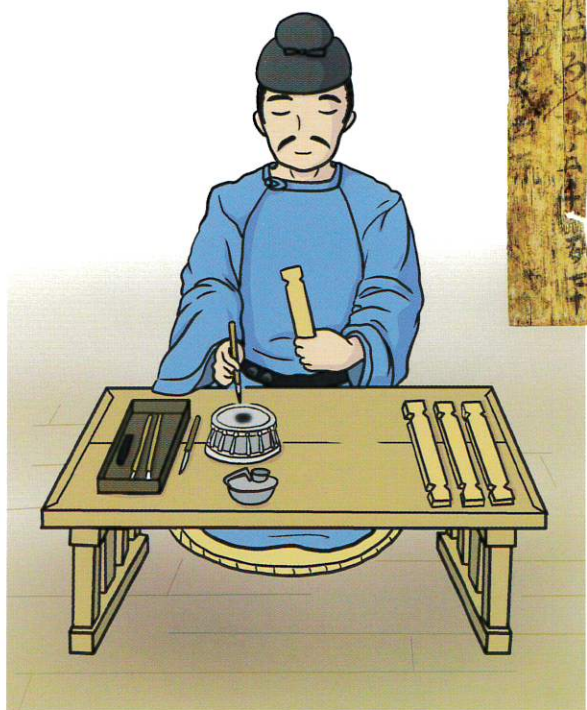
向台遺跡（杉戸町） カマド

3 奈良時代・平安時代の役所と掘立柱建物



奈良時代からの律令制度により、地方に^{くに}国・^{ぐん}郡・^{ごう}郷が設置され、役所として国には^{こくふ}国府、郡には^{ぐんけ}郡家（^{ぐんが}郡衙）が作られました。武蔵国の国府は、東京都府中市に作られました。埼玉郡の郡家は、北西端の行田市や熊谷市に存在した可能性があります。下総国の国府と葛飾郡の郡家はともに千葉県市川市周辺に存在したと推測されています。役所の建物は掘立柱建物で、発掘調査では建物の平面形になら^{ちゅうけつ}んだ柱穴が確認されます。

築道下遺跡（行田市）や八條遺跡（八潮市）などでは、役所で働く役人が使用した遺物が出土しています。



古代役人の執務

小敷田遺跡（行田市）木簡（埼玉県教育委員会提供・埼玉県指定文化財）



八條遺跡（八潮市）丸軋・鉈尾（八潮市指定文化財）

築道下遺跡（行田市）須恵器碗

4 奈良時代・平安時代の土器



築道下遺跡（行田市） 土師器



築道下遺跡（行田市） 須恵器

奈良時代・平安時代に使われた土器は、土師器^{はじき}や須恵器^{すえき}があります。さらにその使われ方で、食材や水などを貯めておく貯蔵具^{ちよぞうぐ}、調理に使う煮沸具^{しやふつ}、食べ物を盛り付ける食器に分類できます。貯蔵具、煮沸具には、壺^{つぼ}・甕^{かめ}・鉢^{はち}・甑^{こしき}、食器には、蓋^{ふた}・坏^{つき}・皿^{さら}・碗^{わん}などがあります。

土師器は古墳時代から平安時代ごろの素焼きの土器を表します。野焼き^{のや}で酸化炎^{さんかえん}で焼きます。

須恵器は、密封した窯^{かま}を用い、酸素量をおさえながら還元炎^{かんげんえん}で焼くので、焼き上がりはねずみ色になるものが多く、固く焼きしまります。

時期ごとのうつりかわりをみると、土師器の甕は、8世紀のものは口縁部が「く」の字状に折れるのに対し、9世紀の甕は「コ」の字状に折れます。8世紀の土師器坏^{まるぞこ}は丸底のものが主体的です。須恵器坏は7世紀代の丸底のものから、8・9世紀は平底^{ひらぞこ}が多くなります。9世紀には須恵器の製法で成形され、酸化炎で焼かれた「ロクロ土師器」と呼ばれる坏が登場します。



貝の内遺跡（春日部市） 土師器甕（左8世紀、右9世紀）



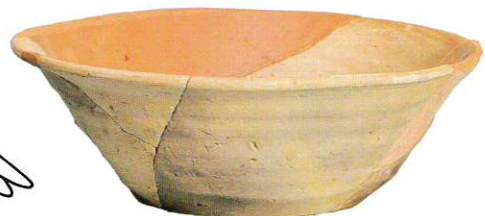
貝の内遺跡（春日部市） 7世紀の須恵器坏



貝の内遺跡（春日部市） 9世紀の須恵器坏



貝の内遺跡（春日部市） 8世紀の土師器坏



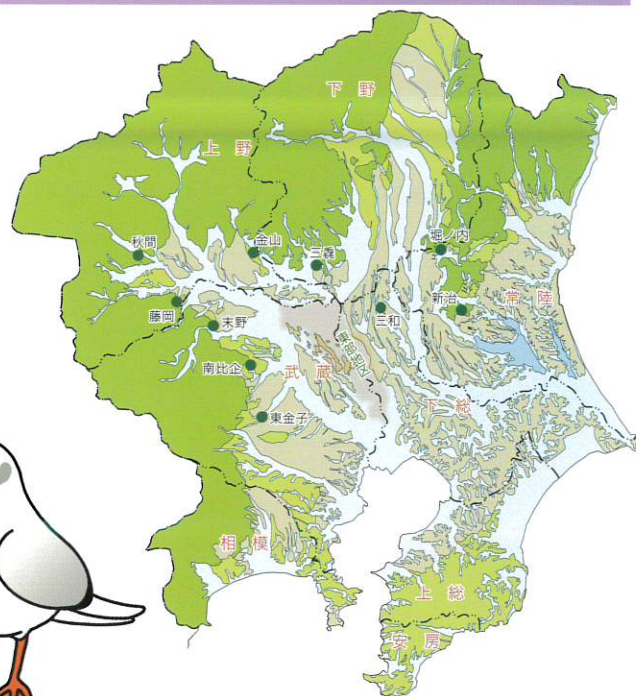
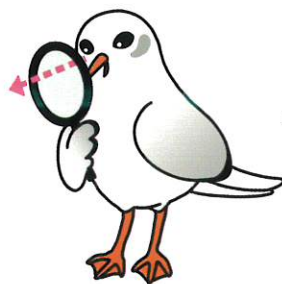
貝の内遺跡（春日部市） 9世紀のロクロ土師器坏

5 奈良時代・平安時代の須恵器

須恵器は、斜面地を利用して築いたのぼり窯^{がま}などを使って焼きます。須恵器窯は、河川が近い丘陵地に築かれることが多く、一度に大量に生産し、河川を通じて広く流通しました。

斜面が少ない埼玉県東部地区では、須恵器窯は発見されていませんが、埼玉県西部の南比企窯^{みなみひき}、末野窯^{すえの ひがしかねこ}、東金子窯^{さん わ にいはり}、茨城県の三和窯、新治窯などで作られた須恵器が出土します。

使われている粘土の特徴や含有物、作り方のちがいなどからどの窯で作られたものかを推定することができます。



東部地区周辺の須恵器窯跡



小淵山下遺跡（春日部市） 南比企窯産の須恵器杯



南比企窯で生産された須恵器には、海綿骨針^{かいめんこつしん}と呼ばれる細くて白い針状の物質が含まれます。



小淵山下遺跡（春日部市） 末野窯産の須恵器杯



末野窯で生産された須恵器には、片岩^{へんがん}や石英^{せきえい}等が含まれます。



八條遺跡（八潮市） 東金子窯産の須恵器杯



東金子窯で生産された須恵器には、砂粒が多く含まれます。



八木崎遺跡（春日部市） 三和窯産の須恵器杯



三和窯で生産された須恵器には、白い粒子が含まれます。



陣屋遺跡（春日部市） 新治窯産の須恵器杯

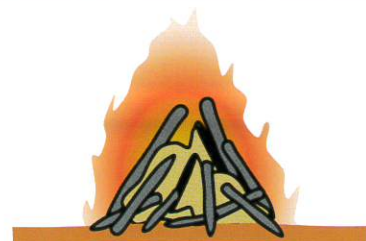


新治窯で生産された須恵器には、きらきらと光る雲母^{うんも}が含まれます。

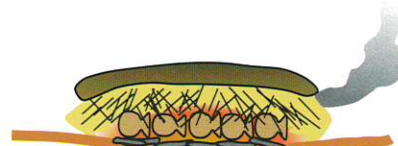
6 奈良時代・平安時代の土師器焼成坑



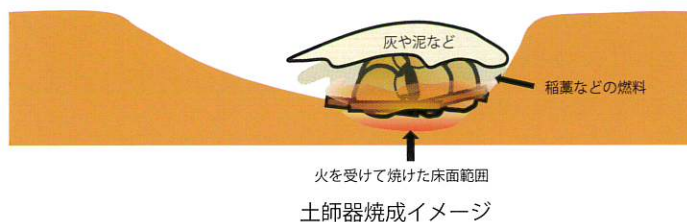
野焼きイメージ



野焼きイメージ 開放型野焼き



野焼きイメージ 覆い型野焼き



土師器焼成イメージ

土師器は縄文土器や弥生土器と同じく、^の野焼きで焼くことができます。土師器を焼くために使われたと考えられる遺構を^は土師器焼成坑と呼んでいます。埼玉県内では、約 150 基発見され、このうちの約 90 基が東部地区内で発見されています。古墳時代後期の 7 世紀から奈良時代の 8 世紀のものが多く、平安時代の 9 世紀になると少なくなります。

土器を野焼きで焼く方法には、酸素を大量に供給し一気に焼き上げる「開放型野焼き」と土器を燃料でおおい、さらにその上を灰や泥でおおうことで密封度をあげ長時間かけて焼き上げる「覆い型野焼き」があり、土師器は主に「覆い型野焼き」で焼かれていたものと考えられます。

^{みずふか}水深遺跡（加須市）では 65 基、^{あらかわづけ}荒川附遺跡（蓮田市）では 17 基と、多くの土師器焼成坑が発見されています。



水深遺跡（加須市） 土師器焼成坑
（埼玉県教育委員会提供）



荒川附遺跡（蓮田市） 土師器焼成坑
（埼玉県教育委員会提供）

7 奈良時代・平安時代の鉄生産



鍛冶工房の復元イメージ



中妻遺跡（白岡市） 鍛冶工房跡

日本で鉄を使い始めるようになったのは弥生時代です。中国や朝鮮半島など、東アジアの国々から鉄の道具がもたらされました。古墳時代に入ると、日本国内でも製鉄をおこない、国産の鉄の道具が作られはじめました。

鉄づくりは砂鉄や鉄鉱石から鉄を取り出す「製錬」、不純物をとりのぞく「精錬」、製品を作る作業の「鍛冶」からなります。埼玉県東部地区では、奈良時代・平安時代に第2段階の「精錬」と第3段階の「鍛冶」を行った鍛冶炉跡が発見されています。こういった遺跡からは、羽口や炉壁、鉄滓などの遺物が出土します。

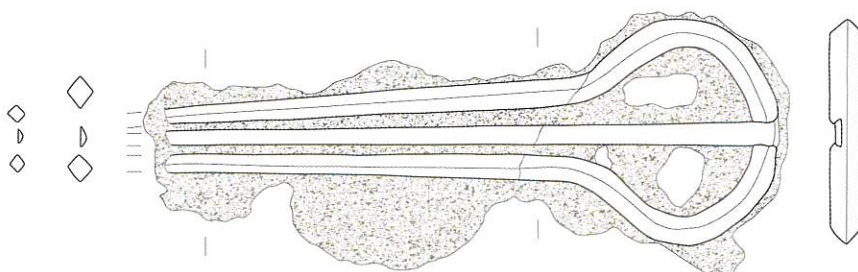
鉄の道具は、小型万能ナイフの刀子や工具のやりがんな、農具の斧や鎌、武器の鏃などが出土しています。屋敷裏遺跡（羽生市）では、奈良時代・平安時代の出土遺物としては日本国内で4点目の楽器の口琴が出土しています。



中妻遺跡（白岡市） 炉壁（左）、羽口（右）



中妻遺跡（白岡市） 鉄製品



屋敷裏遺跡（羽生市） 鉄製口琴（埼玉県教育委員会提供）



8 奈良時代・平安時代の織物生産と紡錘車



荒川附遺跡（蓮田市） 石製紡錘車
（埼玉県教育委員会提供）



長竹遺跡（加須市） 鉄製紡錘車
（埼玉県教育委員会提供）



荒川附遺跡（蓮田市） 土製紡錘車
（埼玉県教育委員会提供）

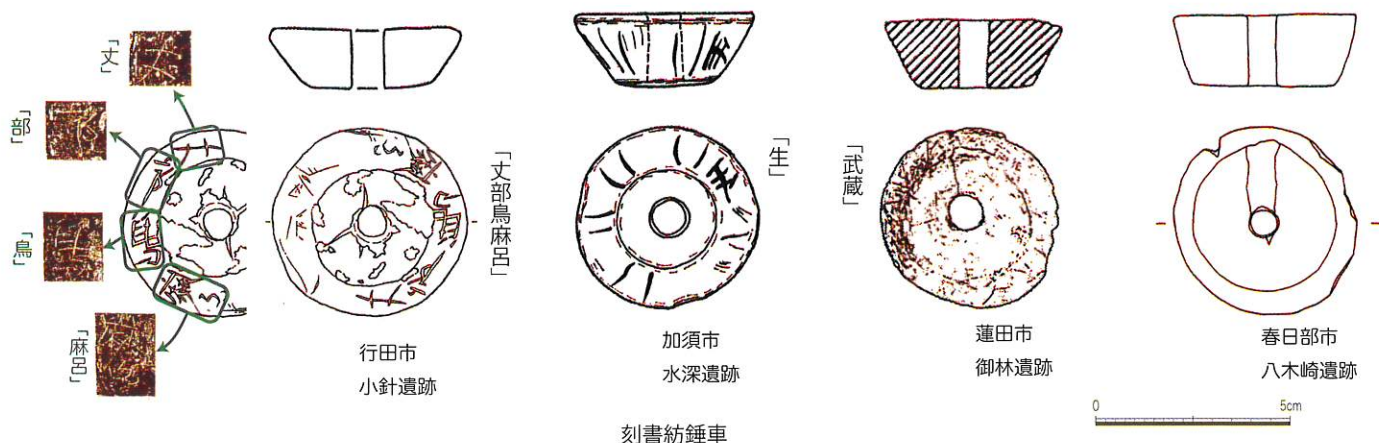


紡錘車イメージ

ぼうすいしゃ
紡錘車は、織物の繊維によりをかけて糸をつむぐためのはずみ車で、弥生時代に出現しました。石製や土製、鉄製のものなど材質はさまざまです。上から見ると円形でその中心に穴があいており、この穴に軸棒を通して、繊維をつるして伸ばし、回転させて糸によりをかけることで糸がつむがれていきます。

埼玉県東部地区で出土した奈良時代・平安時代の紡錘車は、石製、土製、鉄製のものが多く、須恵器の底部に穴をあけて紡錘車にしたものも発見されています。

石製紡錘車には、文字や絵画が刻まれたものも発見されており、単なる生活道具としての性格だけではなく、
さいし
祭祀や信仰とも関わりをもつ資料です。



刻書紡錘車

0 5cm

9 奈良時代・平安時代のいのり

天平 13 年 (741)、^{こくぶんじぞうりゅう みことのり}国分寺造立の詔により、^{むさし}武蔵国では現在の東京都国分寺市、^{しもうさ}下総国は千葉縣市川市に、国分寺、国分尼寺が作られました。国分寺のほかにも^{じょうとくじ}盛徳寺（行田市）では、奈良時代に特徴的な円形の造り出しをもった建物の礎石が現存しています。

仏教に関連する遺物として、^{ば ぼうら}馬場裏遺跡（行田市）より出土した^{が どう}瓦堂は、8 世紀後半から 9 世紀前半のもので、^{きょうかん}経巻や仏像を安置して信仰の対象とされたと考えられます。^{かい うち}貝の内遺跡（春日部市）より出土した^{のきひらがわら}下総国分寺の軒平瓦は、^{きたしたがよう}下総国分寺近くの北下瓦窯で作られたものと推定されています。「寺」と^{ぼくしよ}墨書された土器は、^{も て ぎ}茂手木遺跡（羽生市）のほか、^{つきみちした}築道下遺跡（行田市）、^{はまかわど}浜川戸遺跡（春日部市）で発見されています。



馬場裏遺跡（行田市） 瓦堂
(埼玉県教育委員会提供)



貝の内遺跡（春日部市） 下総国分寺瓦（春日部市指定文化財）



茂手木遺跡（羽生市） 墨書土器「寺」
(埼玉県教育委員会提供)

奈良時代・平安時代の墓は、^{どこうぼ}土坑墓、^{おうけつぼ}横穴墓、^か火葬墓などが見られます。このうち火葬墓は、火葬跡や^{そうぼ}蔵骨器のみの出土も含め、埼玉県内では約 70 基が確認され、埼玉県東部地区では行田市や春日部市などで発見されています。

浜川戸遺跡（春日部市）では、4 基の火葬墓が確認されています。このうち 4 次調査の火葬墓は、8 世紀前半のものと考えられ、底部を意図的に打ち欠いた土師器の甕 2 個体と^{せいい}坏 2 個体が出土しました。一方は甕を正位に置き、欠損した部分に坏が置かれ、もう一方は甕を逆位に置き、やはり欠損した部分を覆うような状態で坏が置かれていました。甕の中からは、骨片が検出されました。



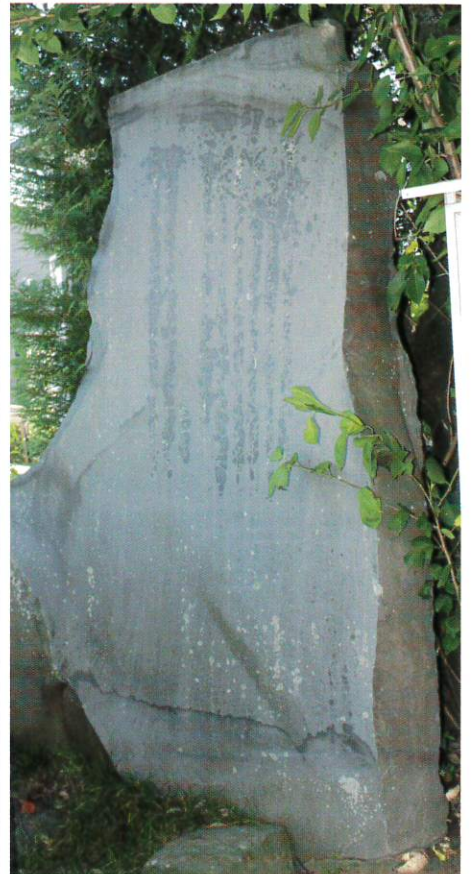
浜川戸遺跡（春日部市） 火葬墓と出土遺物

いせものがたり ありわらのなりひら あずまくだむ
伊勢物語の在原業平の東下りには、「武蔵の国と下つ総の国との中に、いと大きな河あり。それをすみだ河といふ。」という一節があります。春日部市内を流れる古隅田川は、かつて武蔵・下総の国境であり、都鳥の歌の舞台であるという考えは江戸時代からみられました。このほかにも、春日部市には隅田川ゆかりの梅若伝説が伝わっています。江戸時代後期には、粕壁宿の名主であった関根孝熙が、業平の故事にちなみ、都鳥の碑を春日部八幡神社境内に建てました。

都鳥は学名をユリカモメといい、春日部市の鳥に指定されています。冬の季節に日本に飛来し、埼玉県東部地区内の河川などでもよく見られます。



在原業平画像（山口潤氏蔵）



都鳥の碑（春日部八幡神社・春日部市指定文化財）



春日部市内の大落古利根川に飛来したユリカモメ（春日部市の鳥）

東部地区文化財担当者会 40 周年記念リレー展示
春日部市郷土資料館 第 70 回企画展示

都鳥が見た古代
埼玉県東部地区の奈良時代・平安時代

編集・発行 東部地区文化財担当者会・春日部市郷土資料館
春日部市粕壁東 3-2-15 (048) 763-2455

印刷 朝日印刷株式会社
発行日 令和 6 年 7 月 20 日

